



平成30年度 だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 被災地交流 避難所開設訓練

2018



《 だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 》

大仙市教育委員会 教育指導課

本事業でねらう3本の柱

- 「自分の命を自分で守る子ども」の育成
- 小・中学生によるだいせん絆プロジェクト
- 自主防災組織づくりから広げる地域力の向上

防災教育に関わる市内小・中学校の主な取組 【これまでの取組】

～ I・支援と交流 ～

- ①被災地支援
＜全小・中学校＞
 - ・募金・米・文房具などの送付
- ②被災地訪問による交流
＜市内4中学校・8小学校(H29)＞
 - ・部活動交流、グラウンドゴルフ、だまこ汁の提供、清掃奉仕活動
 - プランター花のプレゼント
 - 花火大会
- ③中学生サミットによる支援
 - ・ヘルメットや図書の寄贈、被災地訪問による交流と学習会
 - ・交流活動の報告会

～ II・国や市の事業 ～

- ①H23 福島っ子との交流事業
＜市内5小学校、3地域＞
 - ・冬祭りへの参加や音楽交流、郷土料理体験
- ②H23～H25復興教育支援事業
(文部科学省指定) ＜大曲中＞
 - ・創作花火の打ち上げや鉢花贈呈、若竹町内会との合同避難訓練
- ③避難所開設訓練
＜H25 平和中、H26 大曲西中、H27 西仙北中
H28 仙北中、H29 太田中＞
- ④市総合防災訓練への参加
＜H23中仙地域、H24南外地域、H25協和地域、
H27太田地域、H28大曲地域、H29県冬季防災訓練＞

～ III・計画等の整備 ～

- ①「学校安全計画」「危機管理マニュアル」「防災教育年間指導計画」等の整備
 - ・整備の実態把握と改善
- ②「大仙市版・避難所対応マニュアル」の提供
 - ・総合防災課との連携による計画立案
- ③各学校における緊急連絡体制の整備
 - ・携帯電話等による電子メール配信システム整備

【課題】

- ★地域の実態に即した避難所開設の在り方
- ★自主防災組織と連携した防災活動
- ★市内小・中学校の防災ラジオの整備及び受信環境整備

【今後の方向性】平成30年度の計画

～ I・交流の継続と充実 ～

東日本大震災の被災地との交流

- ・大曲中、大曲小、東大曲小
花館小、四ツ屋小
⇨大船渡市（赤崎地区仮設住宅）
- ・平和中⇨大槌町（吉里吉里地区仮設住宅）
- ・太田中⇨大槌町（大槌学園、仮設住宅）
- ・南外中⇨南三陸町
（さんさん商店街、元仮設住宅の方）

～ II・国や市の事業 ～

①市総合防災訓練

② **だいせん防災教育
「生き抜く力育成」事業**

～ III・計画等の整備 ～

「危機管理マニュアル」等の見直しと改善

だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業

| | |
|---------|--|
| 実施（予定）日 | 平成30年10月29日（月） |
| 実施場所 | 大仙市立大曲南中学校 校舎 |
| 参加者 | 大曲南中学校全校生徒及び教職員 地域自主防災組織代表住民 市内中学校生徒代表及び教職員 消防署等の関係機関 等 |
| 主催 | 大仙市教育委員会教育指導課及び総合防災課 |

～主な活動～

- ①生徒避難
- ②避難所開設
- ③地域住民避難
- ④避難所運営
- ⑤避難者への食事の提供

- ・モデル校の実践として、地震発生時の避難訓練及び避難所開設に関わる初期対応の実際を体験させる
- ・地域住民との防災訓練及び体験を通して、自助から共助へと主体的に行動する力を身に付けさせる
- ・モデル校の実践に中学生サミットメンバー及び市内教職員が参加することにより、市内各地域の自主防災に対する意識の高揚を図る

事業による成果を生かす

「総合的な学力」を身に付け、「自分の命は自分で守る」児童生徒の育成に“つなげる”
角間川・藤木地区の防災モデル実践の成果を大仙市内全域に“広げる”

小・中学生が主体的に社会参画する地域づくりへ

被災地交流計画の概要

大曲中学校（8年目）

| 期日 | 訪問先 | 参加者 | 交流先参加者 |
|----------|----------------------------------|---|---|
| 6月26日(火) | 岩手県大船渡市赤崎地区 後ノ入仮設住宅 大立仮設住宅 | ・大曲中学校生徒会 執行部員、合唱部 員、職員 ・学区内4小学校児 童各2名と職員 計45名 | ・後ノ入仮設住宅の 住民 約20名 ・大立仮設住宅の住 民 約20名 |

大曲小学校、東大曲小学校、花館小学校、四ツ屋小学校（5年目）

| 期日 | 訪問先 | 参加者 | 交流先参加者 |
|-----------------------------|----------------------------------|---|---|
| 6月26日(火) ※大曲中学校の被災地交流に参加 | 岩手県大船渡市赤崎地区 後ノ入仮設住宅 大立仮設住宅 | ・大曲中学校生徒会 執行部員、合唱部 員、職員 ・学区内4小学校児 童各2名と職員 計45名 | ・後ノ入仮設住宅の 住民 約20名 ・大立仮設住宅の住 民 約20名 |

平和中学校（7年目）

| 期日 | 訪問先 | 参加者 | 交流先参加者 |
|-----------------------------|----------------------|----------------------------|---|
| 6月25日(月)～ 26日(火) 1泊2日 | 岩手県下閉伊郡山田町 | ・1年生全員と職員 35名 | ・震災ボランティア 5名 ・マリンランド陸中 職員 5名 ・津波伝承館職員 3名 |
| 9月6日(木)～ 7日(金) 1泊2日 | 岩手県上閉伊郡大槌町 吉里吉里地区 | ・3年生全員と職員 39名 ・保護者5名 | ・吉里吉里地区、浪 板地区のお年寄り 50名 |

南外中学校（6年目）

| 期日 | 訪問先 | 参加者 | 交流参加者 |
|-----------|--|--|-----------------------|
| 10月18日(木) | 宮城県本吉郡南三陸町 さんさん商店街 | ・3年生 20名 職員 5名 計 25名 ・地域住民 8名 | ・元志津川中学校前 仮設住宅住民など |
| 10月28日(日) | 南外コミュニティセン ター（南外地域祭で南 三陸の物産品を販売） | ・全校生徒 46名 職員 15名 計 61名 | ・南三陸町住民 約 10名 |

太田中学校（8年目）

| 期日 | 訪問先 | 参加者 | 交流参加者 |
|------------------------------|---|---|---|
| 5月29日(火) ～30日(水) 1泊2日 | 岩手県上閉伊郡大槌町 第5仮設団地(和野) 吉里吉里仮設団地(吉里 吉里学園グラウンド) 大槌町立大槌学園 旧大槌町役場など | ・1年生 44名 職員 6名 計 51名 | ・第5仮設団地(和 野)住民 ・吉里吉里仮設団地 (吉里吉里学園グ ラウンド)住民 ・大槌学園7年生 |
| 8月11日(土) 夏休み中 | 岩手県上閉伊郡大槌町 第5仮設団地(和野) 吉里吉里仮設団地(吉里 吉里学園グラウンド) | ・太田中学校生徒会 執行部員、吹奏楽 部員、太田地区内 小中高校生とその 保護者、住民 計 100名 | ・第5仮設団地(和 野)住民 ・吉里吉里仮設団地 (吉里吉里学園グ ラウンド)住民 |
| 8月31日(金) | 岩手県上閉伊郡大槌町 大槌町立大槌学園 | ・2年生 48名 職員 4名 ・太田地域住民 10名 計 62名 | ・大槌学園8年生 |
| 10月20日(土) ～21日(日) 1泊2日 | 岩手県上閉伊郡大槌町 大槌町立大槌学園など | ・3年生 44名 職員 6名 計 50名 | ・大槌学園9年生 ・大槌町住民 |
| 11月30日(金) | 秋田県大仙市 大仙市立太田中学校 | ・全校生徒 136名 職員 20名 計 156名 | ・大槌学園生徒会執 行部 |

平成30年度 大曲中学校 赤崎地区被災地交流活動の記録

1 本校の交流活動について

- (1) 本校の交流活動は、文部科学省委託事業「復興教育支援事業」を受けて、平成23年度から始まった大船渡市立赤崎中学校との交流事業を、大仙市による「だいせん防災教育『生き抜く力』育成事業」として継続しているものです。
- (2) 活動費は、市からの事業費と古紙回収等で捻出した生徒会活動費で賄っています。
- (3) 小・中連携の視点から、平成26年度からは学区内の4小学校と連携して活動しています。

2 交流活動におけるプロジェクトの概要

○ 期日：平成30年6月26日（火）

| プロジェクト名 | 主な内容 | 担当生徒 |
|---------------|--|---------------------------|
| 「花で飾ろうプロジェクト」 | ◇後ノ入地区・大立地区の両仮設住宅に、プランター・花苗・土を運び、住民の皆さんと共同で花苗を植えて飾る。 | ○大曲中学校 全校生徒会執行部 合唱部 |
| 「和みプロジェクト」 | ◇両仮設住宅集会所で、合唱（合唱部や参加児童生徒による）を披露する。 | ○学区内小学校 代表児童(各校2名) |

3 交流活動の状況

大船渡市赤崎地区の仮設住宅2か所（後ノ入地区・大立地区）を訪問し、花の苗や土、堆肥等を贈呈しました。そして、仮設住宅住民と共に、プランターへ花の苗を植える作業を行いました。

今年はその植える作業を行う前、昨年、豪雨災害のため中止となりできなかった合唱部員による合唱を各仮設住宅の住民に対して披露しました。披露した3曲のうちの1曲、「ふるさと」は訪問した児童生徒全員で歌いました。

また、仮設住宅を訪問する前に新築された赤崎中学校の校舎見学を行いました。赤崎中学校教職員の配慮により、授業時間帯にもかかわらず、赤崎中学校生徒会役員が丁寧に校舎を案内してくれました。真新しい校舎の設備などを見学しながら、図書室やショーケースなどから大仙市中学生サミット寄贈文庫などを見つけ、児童生徒は先輩たちが行った交流活動の重みを感じていました。



4 その他

仮設住宅が撤去される直前の訪問であり、今回の訪問が最後となることを先方に伝えてあったため、この交流活動で関わった仮設住宅の住民、赤崎中学校教職員や生徒たちが口々に本校が行ってきた支援に対する感謝の言葉を述べていました。そして、仮設住宅の方から本校と4小学校に対し、感謝状の贈呈がありました。

平成30年度大曲中学校 赤崎地区被災地交流活動の様子

平成30年6月26日（火）



午前中は陸前高田市に立ち寄り、「奇跡の一本松」を見学しました。



新築された赤崎中学校の訪問。赤崎中学生徒会役員が校舎内を案内してくれました。



2か所の仮設住宅で合唱部員による合唱披露をしました。訪問児童生徒全員での合唱もありました。



児童生徒が2か所の仮設住宅に分かれ、各住宅の住民の方々と一緒に花の苗植え作業を行いました。



後ノ入仮設住宅で花の苗植え作業をした後の記念撮影。



仮設住宅の方から大曲中、4小学校に今までの支援に対する感謝状が贈呈されました。

絆をつなぎ「たくましく生きぬく力」を育む防災教育

「攻め」の防災 被災地交流学習・防災地域学習

■期 日 平成 30 年 9 月 6 日（木）～7 日（金）

■内 容 3 先生…被災地交流宿泊研修

【3年生】

花火PR活動
吉里吉里地区

第5回復興祈念・交流夢花火大会
9月6日（木）大槌町吉里吉里漁港

吉里吉里地区の住宅等を訪問し、花火大会の案内と神岡小児童が作成した団扇を配布して交流を深めました。

約130発!

鉄くず回収の収益金と吉里吉里地区の共催金で、北日本花火興業さんと和火屋さんの協力を得て、大輪の花火を打ち上げました。大会のラストは、仕掛け花火による速射で見応えのあるすばらしい花火で幕を閉じました。

献花・黙祷
旧大槌町役場

第7回大槌・神岡交流グラウンドゴルフ大会
9月7日（金）大槌町立吉里吉里学園グラウンド

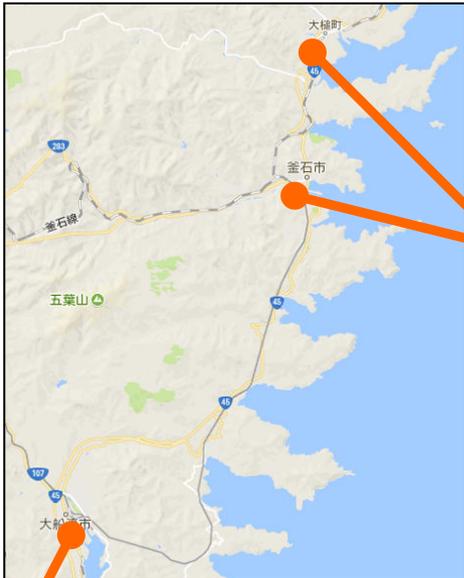
今年で取り壊される旧大槌町役場で、故人の御霊に献花をし、黙祷をささげました。

お年寄りの方々は、今年も開催を心待ちにしてくれました。グラウンドゴルフを通じて心の交流を深める、絶好の機会となりました。

第7回大槌・神岡交流グラウンドゴルフ大会

“物の支援よりこころの支援を”

【1年生】



献花・黙禱の後でボランティアの方から大震災当時の様子などを伺いました。



献花・黙禱復興の町並み見学
旧大槌町役場・大槌地区



被災地の「今」を直接自分の目で見て、感じることができました。

語り部体験
津波伝承館



映像や語り部さんのお話を通して、大津波の脅威と生命の尊さを学びました。

【2年生】

2年防災地域学習
9月6日(木) 神岡地区



二太子沢公園
ひなん場所

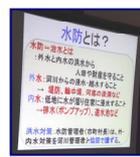


中川原公園
ひなん場所



大仙市役所、防災課防災危機管理監の郡山茂樹さん、総合防災課清水川良弘さんを迎え、「地域の災害等を考える学習」を行いました。避難場所である二つの公園に実際に赴き、昨年度の洪水の様子を写した写真を見ながら、現在の様子と洪水時はどう違ったのかを確認しました。

公園見学後、学校に戻り郡山茂樹さんから神岡地域の防災状況を学びました。偶然にもこの日は、北海道で大きな地震があった日でもあり、緊張感をもって耳を傾けていました。



南三陸町交流

大仙市立南外中学校被災地交流事業

■南三陸町訪問 平成30年10月18日(木)

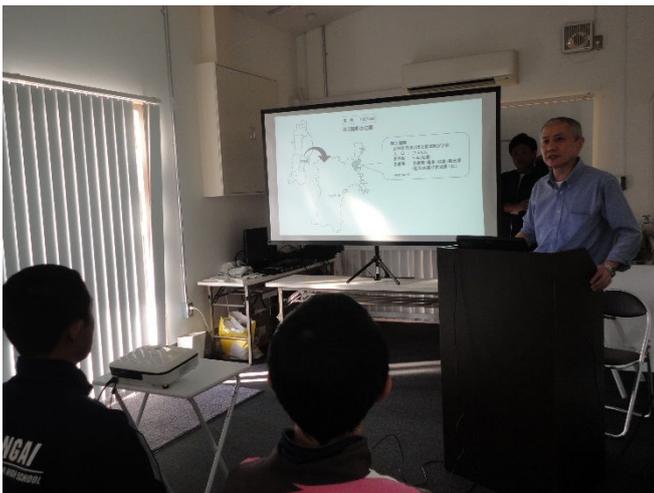
今年で6年目となる南三陸町との交流。3年生が学校を代表して、訪問してきました。今年から1日日程となりましたが、生徒たちは生き生きと取り組みました。南三陸町に到着してすぐに、ほほえみ直売所の皆さんと南外の農産物や加工品、また特別栽培米の販売を行いました。呼び込みの声や陳列の仕方、試食の勧め方など、どんどん工夫しながら活動していました。

さんさん商店街での物産販売



商店会会長さんの震災語り部講話を聞く生徒たち

物産販売終了後は、商店街の研修室で阿部忠彦商店会会長から震災当時の様子や避難所での生活、そこからの復興に向けての取り組みなどをお話していただきました。



■南外地域祭 平成30年10月28日(日)

南外地域祭では、「南三陸町交流」の一環として、全校生徒が参加して、南三陸町の花物と南外ほほえみ直売所の野菜や加工品等の販売などの手伝いを行いました。



大槌・太田交流活動

—平成30年度—

大仙市立太田中学校

つながりの先にある かけがえのないもの

8年前、衝撃を受けた1枚の写真



平成23年。荒れ果てた大槌で見つけた

『一輪の花』

【色のない大槌に花を】

をテーマに先輩たちが始めた被災地支援活動。本年度は昨年度までの活動を見つめ直し、復興も進む大槌の現状から「大槌・太田交流活動」と趣旨を変更して活動8年目がスタート。

『私たちはどう生きるか』 ～未来に向かって～

11月30日(金) 大槌・太田交流報告集会

大槌学園から19名来校 大槌の8年間を語り部たちが・・・



8月11日(土) 命日 小学生有志・中学生徒会役員・高校生(郷土芸能部)・保護者
『ふれあいミニコンサート』・『手作りうちわ』・『揚げほし餅』・・・仮設住宅にて



東日本大震災から8年。私たちにできること。新たな歩み！

5月29.30日(火.水) 1年生44名 ~学び高め合う私たちin大槌~
『花のプランター回収』・『震災列車に乗車』・『震災資料館訪問』 大槌の現状を自分の目で



8月31日(金) 2年生48名 ~届けよう太田の花を~ 絆
『花の贈呈式』・『プランター設置作業』・『大槌学園歌を両校で』 8年生との交流を深める



10月22日(月) 3年生44名 ~あきらめず 前向きに つながりをも~ 3年間の訪問で得た学び
『津波に耐えたひょうたん島の弁財天』・『手作りうちわ』・『揚げほし餅』・・・仮設住宅にて





避難所開設訓練の概要

大曲南中学校

| 期 日 | 主な活動 | 訓練参加者 |
|-----------|---|---|
| 10月29日(月) | <ul style="list-style-type: none"> 土嚢積み上げ作業 避難所開設(室内パーティション等) 避難住民の受入 レトルト食品を利用した昼食提供 水害に備える防災研修 | 全校生徒及び職員 80名 地域住民 53名 中学生サミット関係 69名 市内教職員 16名 その他関係機関、来賓 等 総計約225名 |

平和中学校

| 期 日 | 主な活動 | 訓練参加者 |
|---------|--|---|
| 7月3日(火) | <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練 避難所開設 避難者受入 炊き出し訓練、食事の提供 応急手当講習 | 全校生徒及び職員、地域住民 神岡小学校5年生、大仙市職員 消防署員 等 |

大曲中学校

| 期 日 | 主な活動 | 訓練参加者 |
|-----------------------------|--|--|
| 10月31日(水) * 地域合同防災 訓練 | <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練 煙道体験 初期消火活動 地震体験車への乗車 避難所開設訓練 心肺蘇生、AEDの使い方など一次救命処置訓練 炊き出し訓練 郡山防災危機管理監の講演 | 全校生徒及び職員 812名 若竹町住民 21名 大仙市大曲消防署職員 大仙市総合防災課職員 大仙市水道局職員 等 |



大曲南中学校



平和中学校



大曲中学校



「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」

避難所開設訓練

大仙市立大曲南中学校

1 ねらい

- (1) 地域の地理的条件を踏まえ、水害発生時の避難訓練と避難所開設に関わる初期対応の実際を体験し、災害時の迅速かつ適切な行動や避難所開設に係る役割や支援の方法を身に付ける。
- (2) 学校、地域住民（地域自主防災組織）、関連機関との協力体制を確認するとともに、連携した訓練を通して、自助から共助へと主体的に行動する力及び防災に対する高い意識を身に付ける。
- (3) 近年秋田県内で大雨・洪水の被害が続いていることを受け、初めて水害を想定した訓練を行うモデル校として、市内各校の自主防災に対する意識の高揚を図る。

2 実施日時 平成30年10月29日（月） 10：00 ～ 14：00

3 場 所 大曲南中学校校舎及び校地内

4 参加者 大曲南中学校生徒（65名）、大曲南中学校教職員（15名）、PTA関係者（5名）
自主防災組織関係者（8名）、地域住民（35名）、有限会社ふぁいん所員・入居者（21名）
大仙市役所（9名）、大仙市教育委員会職員（4名）、市内ALT（4名）、
大仙市総合防災課職員（2名）、大曲消防署（3名）、大仙市水道局職員（2名）
角間川公民館・藤木公民館職員（2名）、角間川小学校6年生、藤木小学校6年生（19名）
参加を希望する大仙市内小中学校教職員（10名）
参加を希望する中学生サミットメンバー（15名）及び引率教員（6名）・・・総計約225名

5 想定内容 日本海側を急速に発達した低気圧の影響により、数日大雨が降り続き雄物川流域のほぼ全域で河川の増水、低地への浸水が起こった。10月29日（月）、角間川地区及び藤木八圭、大久保地区に避難指示が出され、同時に両公民館より大曲南中学校に避難所開設の依頼が入る。校長は洪水を予期し、中学校校舎の2階以上に避難所を開設する方針の下、活動を開始・指示した。先んじて自主避難していた中学生と各公民館や自主防災組織の方々と連携し、土嚢の設置、避難者に食事提供など避難所の開設・運営に協力する運びとなった。



6 実施内容

- 訓練 1 避難指示発令後の、要配慮者を含む避難者の受入と4階を中心とした避難所開設。校舎内への浸水を防ぐための土嚢の積み上げ作業。
- ・参加生徒は中学校まで徒歩20分以内の生徒（1年12名 2年7名 3年13名）
 - ・避難者は、ふぁいん（ひかり、あかり）の入居者、町内会、外国人指導助手等
- 訓練 2 避難指示解除後、自宅近辺が汚泥により使用困難となった地域住民の受入と食事提供。避難者受付、パーティション設置、給水車による給水の支援。レトルト食品を利用した昼食提供。
- ・参加生徒は全員、避難者は地域住民（新藤木、八圭、本町）等
- 訓練 3 水害に備える防災研修。適切な水害に対する避難の備え等。



7 成果と課題

指導講評では、初めて水害を想定した避難所開設訓練であったこと、大曲南中学校舎の特長を生かし、4階を有効活用したこと、そして訓練を3つのステージに区切ったことなど、今までに無い提案性のある訓練であったとの言葉をいただいた。生徒たちは土嚢づくりや土嚢を積む作業、パーティション設置、炊き出しなどの役割を手際よくこなすことができた。また、避難者役には高齢の方々が多くいらしたが、受付やパーティション内でも相手の立場に立った声かけを心がけていた。課題としては夜間や冬季、そして地震・台風等の災害への対応も今後検討していきたい。

地域が一体となった自助・共助の訓練活動は、本校生徒にとって大変意義のあるものになった。また、こうした体験の機会を得たことに感謝したい。

絆をつなぎ「たくましく生きぬく力」を育む防災教育

「守り」の防災 避難所開設訓練

- 期 日 平成30年度 7月3日（火）
- 対 象 平和中学校・教職員・神岡小学校5年生・地域住民・関係機関
- 想定内容

7月3日（火）午前9時頃、西仙北地域を震源とする直下型の強い地震が発生し、大仙市地域で震度6を記録した。神岡地域の家屋150世帯が全壊または半壊し、各避難所に市民が集まった。倒壊を免れた平和中学校にも避難者が集まり、避難所を開設することとなった。平和中学校では、1校時の授業時間に地震が起こった。そのため、生徒達の身の安全確保のために平和中学校にとどまり、避難所の開設・運営に協力する運びとなった。

□活動の様子

時刻 9:00

「自助・共助の精神」



①震度6の地震発生（シェイクアウト）



②頭を守りながら落ち着いて避難



③避難場所（校庭）に整然と集合



④大仙市神岡支所から避難所設営の要請

時刻 9:40

「地域への貢献」



⑤全校生徒と神岡小5年生が体育館に集合



⑥担当のリーダーとの打合せ



⑦神岡小5年生も一緒に各担当班で仕事の確認



⑧避難者への情報伝達（広報班）



⑨水等の運搬（物資班）



⑩カレーライスの炊き出し（給食班）



平成30年度「大曲中学校 地域合同防災訓練」報告書

1 ねらい

- (1) 地震の性質やそれに伴う災害を考え、安全な行動がとれるよう、態度や習慣を育てる。
- (2) 災害時において、冷静かつ迅速に的確な行動がとれるようにする。
- (3) 地震の発生を想定し、地域住民と中学生・防災関係者が一体となって避難訓練及び実践的な応急対策活動等の訓練を実施することにより、総合的な防災体制の確立及び意識の高揚を図ることができるようにする。

2 実施日時 平成30年10月31日(水)

3 実施場所
大曲中学校 校舎内及び校地内周辺

4 参加者

大曲中学校生徒(752名)
教職員(60名) 若竹町住民(21名)
大仙市消防本部 大仙市総合防災課
大仙市水道局

5 実施内容

- 訓練1(地震避難…1・2・3年生・職員)
平成30年10月31日(水)午前9時頃、緊急地震速報が発表され、秋田県沖を震源とする強い地震が発生し、大仙市でも震度6強から7の強い揺れが70秒ほど続き火災も発生したという想定である。非常放送で生徒に避難指示があり、一斉に体育館に避難した。



- 訓練2～4(初期消火・煙道体験…1年生)
火災発生後の初期消火活動と火災発生時の避難体験として、水消器による消火活動と煙道体験を1年生全員が行った。



- 訓練5(郡山危機管理監による講演…2年生・若竹町民)
郡山危機管理監から、河川の増水による災害や対策方法を聴き、防災に対する意識を深めた。



- 訓練6(地震体験…2年生・若竹町民)
地震体験車に乗り、強い揺れを体験した。



○訓練7 (避難所開設…3年生・若竹町民)

「訓練1 (避難訓練：地震想定)」に引き続き、若竹町周辺地域の家屋が全壊または半壊し、大仙市より避難指示や避難勧告が発令され、さらに大曲中学校を避難所として開設するよう市長より指示がきたことを想定し、避難所開設を行った。



○訓練9 (炊き出し訓練…1～3年生

若竹町民)

災害時において水道管が破裂し、上水道の確保ができない中、市より給水タンク車が避難所である大曲中学校にいち早く応急給水に来たという想定で、給水車の水を使用した炊き出し訓練を行った。



○訓練8 (心肺蘇生CPRとAED…3年生

若竹町民)

災害時には、救急車を要請しても直ちに現場へ駆け付けけることは困難な状況になりやすい。傷病者においては一刻を争う状態もあり得ることから、一次救命処置の仕方について理解し、とっさの場合においても一次救命処置ができるようにする。

6 訓練を終えて

今年郡山危機管理監による講演を新たに採り入れたことで、活動の幅が広がり充実した。地域住民や市防災課などの関係機関と連携し、総勢800名で訓練を実施することができた。緊急時には地域等とのネットワークを大切にし、その機能を果たして、安全に行動できるようにしていきたい。

